

とうもろこし新品種「スジシラズ」について

副島四郎・野崎国彦・故松永義迪・高田康之

(宮崎県総合農業試験場)

SOEJIMA, S., NOZAKI, K., the late MATSUNAGA, Y. and TAKADA, Y.  
A New Variety of Maize, "SUJISHIRAZU".

本品種はすじ萎縮病耐病性を主目標に育成されたもので、昭和46年より群馬県で奨励品種に採用され普及に移されることになったので、育成経過および特性の概要をのべて参考に供したい。

来歴ならびに育成経過

昭和41年に宮崎県総合農業試験場都城支場において、「神金一1」を母とし、「White Dent Corn」を父として組合せたフロント種×デント種の一代雑種である。昭和43年より「都交38号」の系統名で関東のすじ萎縮病常発地帯の関係県に配付して地方的適否を検討してきたもので、昭和46年にとうもろこし農林交14号として登録され、「スジシラズ」と命名されたものである。

母の神金一1は昭和29年に山梨県塩山市から収集された黄色粒の在来フロント種で、すじ萎縮病に極強い品種である。父の White Dent Corn は昭和19年長野県朝日村から収集された白色粒のデント種で両品種とも長野県農試桔梗ヶ原分場より取寄せたものである。

形態的特性

程長は交1号より長程で、着雌穂高もやや高い。雌穂も大きく子実は帯黄乳白色のデント種がかったフロント種である。

生態的特性

熟期は交1号より約2日遅い中生種（関東では晩生）で、初期生育が良い。耐倒伏性はあまり強くないが下葉の枯上りはやや少なく、すじ萎縮病に特に強い。糊熟期の収量は雌穂重歩合がやや低い総収量は交1号にまさる。

適地

試作結果や諸特性から、関東以南のすじ萎縮病常発地帯における青刈サイレージ用に広く好適すると思われる。群馬県では交1号、ホワイトデントコー

ン、エローデントコーンなどとおきかわり、山間高冷地を重点に約670haの普及が見込まれている。

栽培上の注意

交1号程度の熟期であるので、寒冷地でのサイレージ用には晩生に過ぎ、またすじ萎縮病回避のための6月中旬以降の播種では、糊熟期に達しないことがあるので、サイレージ用はなるべく早播きにすることが望ましい。

耐倒伏性は交1号程度で強くないので、極端な多窒素・密植栽培は避ける方がよい。

一般特性

品種名		スジシラズ	交1号	ホワイトデント
成	雄穂抽出期(月日)	6.27	6.25	6.25
	雌穂抽出期(月日)	7.3	7.3	7.4
	着雌穂高(cm)	238.4	222.4	212.0
	着雌穂太さ(cm)	132.0	119.8	119.8
	倒伏抵抗性	2.0	2.0	2.0
	すじ萎縮病	中	中	やや弱
地	すす紋病	強	中	弱
	すす紋病	やや強	強	—
	下葉の枯上り	少(-)	少	少(+)
	下葉の枯上り	少(-)	少	少(+)
'67	a 当雌穂重(kg)	144.0	145.0	118.9
	雌穂重歩合(%)	28.1	30.1	27.0
	a 当総収量(kg)	527.7	481.4	438.0
a 当総収量(kg)	群馬現地 '68	654.0	628.0	—
	〃〃 '69	955.5	706.2	764.4
	〃農試 '70	657.2	563.6	492.0
	神奈川畜試 2年	425.7	—	389.9
	埼玉畜試 2年	690.9	544.6	455.0
〃農試 '70	349.0	297.0	285.0	

命名の由来

すじ萎縮病に対して極めて強い抵抗性を持つ多収品種を意味する。